

# 流行語とその音数・文字数の関係性

23B11388 佐藤陽人  
東京工業大学工学院

## 1. はじめに

その年に日本で話題となった言葉を選ぶ新語・流行語大賞、ネットで流行した言葉を投票で決めるネット流行語大賞。今回はその文字数や音数に着目し、どの程度の文字数が言葉として流行りやすいのか、またそもそも文字数や音数が流行りやすさに関係があるのかを調べた。

## 2. 方法

ユーキャン新語流行語大賞のトップ10にノミネートされた言葉、ネット流行語大賞にノミネートされた言葉をそれぞれ過去10年分集計し、それらの音数、文字数を測定する。その後、夫々の流行語について、文字数と音数を分け、数ごとにいくつ該当する言葉があるかを集計する。

## 3. 結果

新語流行語は文字数が3~6文字に固まっており、音数も4~8文字とかなり狭い範囲にまとまっている一方、ネット流行語に関しては10文字以下を中心として広い範囲に、音数文字数ともに分布している。また新語流行語は最長でも音数の17音が最高であるのに対し、ネット流行語は、このグラフからは読み取れないが、50音を越える言葉も含まれている。

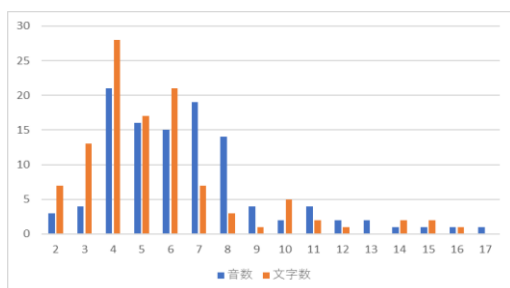


図1. 新語流行語大賞の音数・文字数

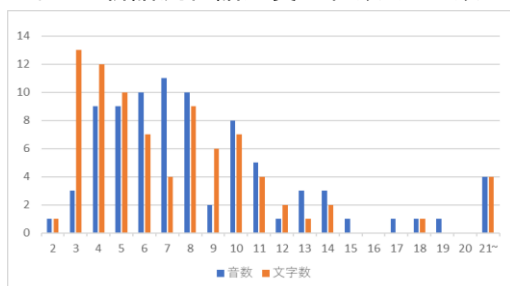


図2. ネット流行語大賞の音数・文字数

## 4. 考察

新語流行語に関しては、短くて言い回しやすく、ニュースなどでもテーマとして取り上げやすいような短い言葉の方がより流行りやすいのではないかと考えた。特に文字数に関しては6文字と7文字の間でその数に大きく差が出るが、これは7文字以上の言葉は単語ではなく複数の語を組み合わせた連語やあるいは文章のような形になってしまい、言葉として流行りにくくなるのではと考えた。また、新語流行語はより大衆に流行した言葉を選定するため、特にテレビといったメディアにとり上げられるかどうか大きく関わってくると考えられる。ここにもある文字数に流行語が集約される要因だと考える。一方、ネット流行語は新語流行語とは、特に範囲の広がり方について、異なっている。これに関して、X(旧Twitter)を利用した言語研究について、「フォロワー数などの特徴量を算出したり、クラスタリングすることによって、一見したところ独立して存在しているように見える語彙の関連性や言語学一分野の研究範囲では見いだせなかった流行語の本質を客観的数値に基づき提示できる可能性がある」と『流行語・新語の変遷における原因とその問題点』にて吉田が述べている。また、新語流行語には見られないような長文のような言葉に関して、現代では自動変換機能を持つキーボードなどの利用により、発話では流行りようのないような言葉が、ネットの文字を打ち込むという特有の動作によって独自に流行っているのではと考える。

## 5. おわりに

本稿では流行語に音数や文字数が関連するのかについて議論した。マスメディアで取り上げられた言葉を中心により一般的に普及したと思われる言葉を選定する新語流行語に関しては一定の法則性が見られたが、ネット流行語に関しては特定の法則性は見られなかった。新語流行語に関しても、このデータ以外の要因でその言葉が決まり、それがたまたまこの文字数や音数に合致しているだけである可能性も考慮する必要がある。

文献:

「流行語・新語の変遷における原因とその問題点：反証可能な流行語研究に向けて」吉田江依子 New Directions 38 39-58, 2020-03-31